

# 記念公演

## 日本におけるピアスタッフの展望と課題

講師：原田幾世（日本ピアスタッフ協会 会長）

引地はる奈（日本ピアスタッフ協会 副会長／障がい者相談・地域活動支援センター「ひびき」）

磯田重行（日本ピアスタッフ協会 副会長／社会福祉法人つばめ福祉会）

座長：高橋清久（公益財団法人精神・神経科学振興財団）

久永文恵（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）

今年のリカバリーフォーラムの全体テーマは「リカバリー志向サービスへの転換」です。このテーマは昨年、一昨年と同じテーマですので、副題は「当事者参加による社会的意思決定 Part3」となっています。今年の記念講演会のテーマも同様に Part 3 です。

昨年のユミコ・イクタさん、一昨年のアーミー・マウラさんによるアメリカにおけるピアスタッフに関する講演に続いて、今年はそのまとめとして日本ピアスタッフ協会の原田幾世会長、引地はる奈副会長、磯田重行副会長のお話をお聞きしました。タイトルは「日本におけるピアスタッフの展望と課題」です。

司会は、毎年記念講演の座長を務めている高橋と、昨年まで記念講演のアメリカ講師の通訳を務めた久永です。

まず久永より過去二回の講演のまとめを報告しました。その中で、マウラさん、イクタさんのご講演はともに「どのようにして精神保健サービスをリカバリー志向に転換していったか」というのが重要なテーマであったこと、その転換していくきっかけ・基盤となったのが、当事者運動（権利擁護運動）や当事者の体験から語られるストーリーであるということ、そして転換のプロセスの中でピアの力がどう発揮され活かされてきたのかが一つのポイントだったこと等に触れ、聴衆の皆さんにこれまでの話の流れをお伝えしました。

原田会長はご自分のリカバリー体験話をされたのち、ピアスタッフの現状、ピアだからできること、ピアの可能性等について格調高いお話をされました。これまで支援する・されるの関係にあったピアと支援者の中から、自ら声をあげるピアと、そのピアの力を信じている支援者が増えてきて、ストレングスの視点に立って、日本全国各地でピアスタッフの活動が活発化していること、病気を体験していることが力になっているピア、リカバリーに役立つ経験を沢山持っているピア、そのようなピアだからこそできることが沢山あること、そして最後に利用者の想いを大切にしながら、ピアと専門職との協働作業の重要性を強調されました。

引地さんも磯田さんも原田さんの話を補足しながら、自己体験をお話しされました。

この会長、副会長のお話は、ピアスタッフ協会の牽引力となってくれる頼もしさを感じさせてくれました。また、過去二回の講演の内容をふまえての議論を、我が国の中でどのように位置づけていくのかを考える機会にもなったかと思います。

引き続き質疑応答に入りましたが、会場からは、ピアが支援者になった時の自己と周囲との葛藤など、ポイントをついたいくつかの質問が出されました。

最後に、今日のこのフォーラムに出席できるような人はごくわずかであり、背後に閉じこもったまま大きな苦しみを抱えている莫大な数の当事者がいることを忘れてはいけないという聴衆の一人の発言があって、精神医療福祉の今後の大きな課題が改めて胸に刻まれ記念講演会を終わりました。

《高橋清久（公益財団法人精神・神経科学振興財団）》

《久永文恵（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》